

2018/4/1 No.77

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

福祉一年生



理事長 木下 宣世

二〇一八年度の歩み
は丁度イースターの日
からスタートしました。今年のイースターは
四月一日からです。主イエスの復活の命を
頂いて全く新しくされ、新しい命に満たされ
て新年度の歩みに入りたいと思います。

私事にわたることと恐縮ですが、今年度は
私たち夫婦にとって全く新しい生活が始まり
ました。それはこれまで三〇年間牧師として
働いてきた西千葉教会を辞任して、当ミッド
ナイトミッションのぞみ会の理事長職に専念
することになったからです。住居も西千葉か
ら富津に移ってまいりました。

富津における望みの門の働きは今年で五十
六年になりますが、私の父木下弘人は当時M
BKミッションの婦人宣教師たち、特にドー
ラ・ムンデイガー宣教師に協力し、望みの門
の設立にかかりました。

その関係で私も望みの門の働きに若い頃か
ら加わってきました。西千葉教会の前任教会
である船橋教会で牧師をしていた頃から月
一回は富津に通い御手伝いをさせてもらい
ました。わずか一年間だけでしたが紫苑荘の

施設長をしたこともありました。

特に二〇〇二年三月からは理事長職を十六
年間も務めさせて頂いております。しかし、
私のこれまでの本職はあくまで教会の牧師で
ありました。神学校を卒業して五〇年間ひた
すら牧師として働きをしてまいりました。

望みの門とは設立当初から今日まで長くか
かわってきたと言っても、それはまことに表
面的なものであり、時間的にもわずかな時間
しか割いてきませんでした。理事長と言っ
ても井本義孝総合施設長を始め、現場の職員達
にまかせっぱなしでありました。

ですから、私は福祉事業については全くの
素人であり、何もわかっていないと言っても
過言ではありません。福祉一年生です。これ
から勉強させて頂かなければなりません。周
围の人々に教えてもらいながら社会福祉事業
についての理解を深めていきたいと思ってお
ります。

但し、理事長という職は現場の職員とは違
います。余り邪魔にならないよう気を付けな
ければならないと思っております。理事長と
しての役割は利用者の方々が出来るだけ快適
な環境で平安の内に喜びをもって過ごせるよ
う配慮し、また職員一人ひとりが元気に生き
がいをもって利用者の方々のために働けるよ
うサポートすることにあると思います。

特に当法人はキリスト教精神を基にして営

まれる福祉事業です。この基本的な理念が失われることなく、深く広く浸透していくよう祈り努めることも理事長の責任だと思えます。そのようなわけで一年生としての歩みを始めればかりですから、どうぞ御指導くださるようお願い致します。

この年度も皆さま方の上に主の恵みと導きが豊かにあるよう祈ります。

外国人技能実習生の取り組み

法人事務局長 西尾 建

去る、二月十三日から十六日までの三泊四日、篠昭博施設福祉部長と共にフィリピンを訪問してきました。

と言うのも、のぞみ会では今年度より外国人技能実習生の受け入れを進めることとしたからです。外国人技能実習制度とは実習により技術や知識を自国に持ち帰るためのものです。他の産業で既に実施されている制度ですが昨年十一月から介護分野が追加され、期間も従来の三年から五年に延長されたことをきっかけに導入に踏み切り、その第一号の実習生を受け入れるにあたり採用面接を現地で行うための渡航でした。

在比中の三日間で二十数名の希望者と面接

をしました。中にはEPA（経済連携協定）での日本滞在経験者もあり、その方たちは比較的日本語での日常会話が可能でしたので通訳を介さず簡単な会話ができました。

「やはりコミュニケーション上、言葉の壁は大きい。これが仕事となればなお…」と痛感しました。また、面接を通して本制度で希望者の色々な考えや置かれている状況を聞くことができました。日本で働きたい理由も様々でした。物価の違いから日本で実習中に得られる対価に大きな魅力を感じていることは勿論だと思えますが（希望者には看護大学を卒業した方が多く、自国で看護師として働いても月収五万円程度なのだから）、「安全である」「比較的近い」の理由が多かったようでした。子供を持つ方も少なくなく、その子供を置いて異国に働きに来ることの覚悟を思わせられ、その方たちを受け入れるこちらの覚悟を問われた気がしました。それらを通し、この渡航では様々なことを実際に肌で感じることでできた大変



良い機会であったと思っています。

この取り組みは、法人の方針の一つでもある「日本及び世界の福祉の向上に寄与する」との具現化にもつながるものでもあります。

また、本制度は前述したような目的で実施されるのですが、福祉分野（特に介護）においての人材確保難への対策の側面もあります。実習生や送り出す国、日本やのぞみ会において、互いにメリットのある形になれば良いと思っています。また、今後の日本で必要な介護者の確保や社会の動向を考えた場合、どうしても海外にも目を向けなければなりません。法人にとっては初めての試みですし、不可避の課題でもあらうと思えます。今後のこの制度への取り組みについてご注目、ご支援いただければ幸いです。

海外研修に参加して

給食サービスマスター 鶴岡 はるみ

私は生まれてから一度も海外に行ったことがありませんでした。まさか初めての海外が仕事でなんて……。ちょっとカッコイイようなでも福祉施設に勤めていて栄養士でそんな私が何のために？ 海外研修の話をお願いした時には戸惑いがありました。

法人が福利厚生で加盟している福利厚生センター(ソウェルクラブ)の海外研修の今回は「総合コース」ということで、全国より福祉分野の各職種、多種多様な施設から応募があり、選ばれた、会ったこともない福祉関係者二十一名がオーストラリアへと視察に向かったのです。もちろん同じ法人からの参加者もいるはありますがありません。加えて栄養士は私ただ一人でした。

メルボルンでは、バララット・ヘルスサービス(総合病院と合併し小児から高齢者までの総合的ケアを目的とした大規模施設)とエムシー カルム デイスアビリティ サーズ シーズ(障害者福祉施設)、ヘイリーハウス(バララット・ヘルスサービス内高齢者福祉施設)へ、ブリスベンではコミュニティキッズアネリー(児童福祉施設)とベラスココートケアリングセンター(高齢者福祉施設)を訪問しました。

実際、私は栄養士として現場で働くとは言っても直接利用者の処遇に関わることは少なく、施設内の環境であったり、介護の事であったり特に自分の施設ではこうしてやっているなどという視点がよくわかりません。ただ、やはり土地の広さが日本とは全く異なり、屋外には利用者のための庭園があったり、パソルの下で座れるスペースがあったり、ほぼ平屋であったのも印象的でした。屋内に

はディスプレイが施され、ゆったりとした時間が流れているように感じられませんでした。まず施設特有の臭いがない。職業柄、匂いには敏感であり、



食事にもとても興味がありました。食器は認知症の方以外は家庭同様の重たいものを使用し、もちろんナイフやフォークもあり一人ずつランチョンマットが敷いてあり美しいものでした。食事が事務的ではなく、ただ利用者のための利用者本位での食事がそこにはありました。

初めての国外、初めての長距離での飛行機移動、全く知らない人との同室。私の緊張はピークでしたが同じ志を持つ同士、すぐにみな打ち解け毎晩毎晩、視察した施設の事、疑問に思った事、自施設と比べて、自分の意見、国の事や政策の話にまで話題は尽きませんでした。参加者はみなそれぞれに各施設の新人では

なく、施設から推薦された役職のある人材が大半で、当法人からの参加者ももっと利用者の現場で働いている介護員や保育士や指導員であったなら、参加者のみんななともっと熱い話やぶつかり合いができ、実りの多い話を持ったのかもかもしれません。正直、栄養士目線、食事目線での質問は少なくどうしても質問に偏りがありました。そんな私でも、大変刺激になった出会いでした。

私は幸運なことに福祉の多分野の施設を有する法人に勤務し、就労継続支援事業の施設や乳児院、児童養護施設、養護老人ホームと特養にも就業し、今までのことを振り返りながら視察することができました。視察で印象的だったのは、エムシーカルムデイスアビリティサービスでの出来事。何気なく歩いてきた利用者に「いつが一番いい？」と案内者が質問しました。答えは「いつでも一番だよ」と。いつでも一番なんて。この研修で色々な施設を視察し、色々目の当たりにして、疑問に思うことも多々ありましたがこの答えには嘘は無いように思えました。

今回の研修を終え、異国で一期一会の出会いの仲間たちとかけがえのない時間を過ごす機会を与えていただき、感謝いたします。次回、またチャンスがあるのならば給食、調理、栄養関係の研修会にぜひ参加させていただきたいと願います。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

「マナの家」の改修工事

生活指導員 水野 直理

去年の秋も深まった頃、外塀と食堂の床下が白アリにやられていることがわかり、改修工事が必要になりました。工事は今年の一月半ばから始まりましたが、日常生活、特に寮生の生活に支障をきたさないように創意工夫を凝らしました。工事中は食堂や和室は使えず寮生がくつろぐ場所をどうしようかということになりましたが、台所でテレビを観たりスマホやパソコンをしたり、夜は職員の仕事に差し支えない時は、事務室のソファでくつろいでもいいことにしました。朝食と夕食は台所にダイニングテーブルを持ってきて「狭いながらも楽しい我が家」といった雰囲気の中での食事となりました。寮生たちもこうした空間を喜び、楽しんでるようです。職員も予想以上の便利さや居心地の良さ「ずっとこのままでもいいね。」などと冗談半分に言い合ったりしています。工事はクロス張りの替えや外壁塗装など古くなったり使い勝手が悪くなったりしたところも行うので、洗濯物の干し場をその都度変えたり、今まであった物が違うところに移動したりして、まれば行き違いはあったものの、全体的にはと

ても順調に進んでいるように感じました。

寮生にとって

家をリフォームするという経験は得難く、不便ななかでも知恵を絞り、今の生活をできるだけ快適にしていくということを少しでも実感してもらえたらと願っています。

三月の終わりから四月初めにかけて新しい寮生が三人入寮しますが、改修工事がほぼ終わってからのということで、これもとてもいいタイミングだったと思っています。

機関紙に記事が掲載される頃には奇麗にリフォームされた「マナの家」での生活が始まっていると思いますが、今は工事現場の方々も朝から晩まで熱心に作業をしてくださっています。もちろん工事の音はしますが、こちらの生活にはほとんど支障が出ず、お互いに気持ち良く過ごせていることは感謝なことだと感じています。



婦人保護施設 望みの門学園

現代社会における
婦人保護事業的
思考様式の新局面

園長 田尻 隆

平昌オリンピック男子フィギュアスケートで六十六年ぶりに五輪連覇という快挙を成し遂げた羽生結弦選手の熱狂的なファンのことを「ユツ女子」と呼ぶそうです。美貌、八頭身、金メダル、おまけに国民栄誉賞と唯一無二の存在に世の女性のハートは釘付けになっています。

私が中学・高校時代を過ごした宮崎で、同級生女子のハートを釘付けにしたのはもちろん彼みたいなハイスペック男子ではなく（そもそも宮崎にそんな男子はいませんし）、やんちゃ自慢で勉強嫌いのちよいワル男子が「イケてる」と呼ばれていました。その多くは、卒業後やっとこ決めた職場をあっさりと辞め意味なくプー太郎を目指します。かわい女子ほどこのタイプの男子につかまり人生が早々と決まってしまうのです。離婚率が高く、シングルマザーになっても養育費をもらえないどころか借金だらけ。男に頼るような生き方をしていたら確実に路頭に迷います。さらに社会との繋がりを避ける閉鎖的な生活空間は常時イライラ感に支配されてしまうのです。それは瞬く間に暴力に昇華し、男は女

を殴り、男と女は子どもを虐待する：後戻りできない負のスパイラルへドロップインです。残念ながら全国の婦人保護施設の利用率は低く、社会の中で生き辛さを抱えている女性に婦人保護事業のサービスがちゃんと届けられていないのが現状です。この問題に取り組むべく「売春防止法改正実現に向けたプロジェクトチーム」が立ち上がり毎月一回、東京で全国の関係者と議論を重ねています。いかにすれば困難を抱えた女性にサービスを届けることができるのか？今後の大きな課題であります。

一方、奇跡的に？婦人保護施設にたどり着いた女性に対して私たちはどのように関わっているのでしょうか？「ルワンダの奇跡」という言葉があります。ルワンダが軍政権下にあった時代にわずか三か月間で百万人が虐殺された多くの難民が生まれました。しかしそのうちのほんの一握りが、たどり着いた先のヨーロッパで高等教育を受けることができたのです。そ



「506070」

の人たちが再びルワンダに戻ったことでこの国は急成長を遂げることとなります。今ではアフリカの中でも指折りの治安のよい先進国となったのは、まき散らされた難民が希望の星となって祖国に帰ることができたからです。

私たちは日々の生活を通し利用者が将来に希望が持てるような支援を提供しているのでしょうか？施設にたどり着くのできたわずかな女性が、辛い時は逃れることのできる安全で安心な場所があること、心が癒され人とのつながりを回復することを経験して再び社会へと巣立っていく。そうすることで糸を紡ぐように社会の女性から女性へとその支援の輪が広げられていくことができたなら・・・。

三月の理事会におきまして望みの門学園に新しい希望の種が蒔かれました。この一年大切に水をかけ手入れをし、大きく成長することを待ち望みたいと思います。

養護老人ホーム 望みの門楽生園
健康であれば、こそ

看護員 保坂 恵子

花の便りが届き、吹く風も柔らかく感じます。楽生園は、皆様元気に過ごしております。利用者様の平均年齢は、八十二才（内車椅子

使用者十五名）となりました。そして内科・外科・精神科・眼科・歯科・耳鼻科等、一人で重複疾患を持つ人も多く、ほとんど継続服薬者となっております。

このような中、日々健やかに過ごして頂く為には、



日々の健康管理が重要となります。

この健康管理ですが、例年ですと利用者様の健康診断は、年一回の実施でしたが、本年度より、新規事業として、春に一回追加し、年二回（春・秋）実施する事になりました。

そして、異常者につきましては、医師の指示どおり通院治療を行う事になります。囑託医であります東先生には、歳相応の無理の無い治療を行って下さり感謝いたしております。

しかし、利用者様には、昨今身体機能低下による下半身の不安定が目立つようになりまして、今年度は、楽しみながら、遊びながら、社会性も養えて、身体・脳に良い影響を与えたいわれておりますリハビリ効果が期待できるレクリエーション「遊びりテーション」を多く実践したいと思っております。

そして今後は、例年行事と併せて春のお花見から始まり、四季折々のお楽しみ会も、盛りだくさん、参加者の満足度アップを目指し計画したいと思います。それまで健康管理をしながら「遊びりテーション」で、体力をつけ、皆様揃って参加され、笑顔の楽生園が築いていきますようにと願って、より一層、健康管理に努めたいと思います。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘
新年度の取り組み
「笑顔いっぱいに！」



介護支援専門員 多田 なつ美
 平昌でのオリンピックで、日本カーリング女子選手の活躍がありました。選手たちの競技中の方言や、おやつタイム等がテレビで紹介されていました。一番印象に残っているのは、彼女たちの笑顔です。あの笑顔が三位決定戦での勝利をもたらしたのではないかと思っています。

「笑う門には福来る」いつもニコニコして、笑いが満ちている人の家には自然に福運がめぐってくるのとことわざどおりでした。笑顔には、「免疫力を高める」「脳を活性化」する「自律神経のバランスを整える」といった健康効果があるといわれています。

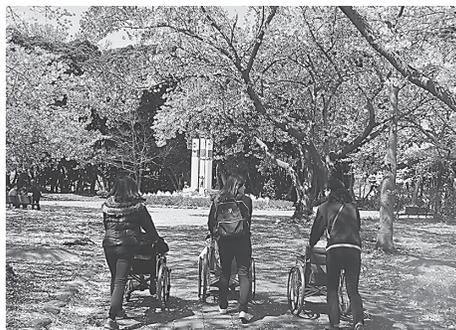
この効果は、気分に関係なく、単純で十分

に得られます。さまざまな病気や障害で笑う機会が減りがちな施設の利用者様にも、笑いの効果を感じていただきたいと思っ

ています。そのため、利用者様に楽しんでいただける

行事やレクリエーションを充実させたいと考えています。昨年四月に、君津市内の公園にお花見に行った際の利用者様の笑顔は今でも忘れられない思い出の一つです。レストランでの外食では、ビックリするくらい食欲で、食後のデザートまでペロリと完食されていました。

新年度も季節に応じた外出を数多く計画したいと思えます。また、歌や踊り、茶道クラブ、読み聞かせ、傾聴ボランティア等、多様な地域のボランティアの方々をお招きして楽しい時間を過ごし、笑顔を増やしていく。近隣ショッピングセンターへの買い物、地域の文化祭や産業まつりへの参加等、施設外への行事にも参加する計画をしていきたいと思えます。



利用者様の笑顔をいっぱいにするために、私たち職員が互いに笑顔を忘れずにサービスを提供し、福はやってくると信じ、職員一同新しい年度に取り組んでまいります。……そだねー。

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里
私が果たすべき役割

栄養士 安藤 美和子

昨年度の法人目標は、「職員のモチベーション及び資質の向上。利用者のサービスの向上に努める」でありました。その目標を胸に富士見の里の厨房そして栄養士として考えやってきました。

まずは、職員のモチベーション及び資質の向上ですが、昨年一年間外部研修をさせていただき、私を含めた厨房職員六名も勉強させていただきました。

私が行かせていただいたのは、食品素材の中に酵素を急にしみこませることで、見た目や栄養素、風味等そのままでも柔らかくすることが出来るという凍結含浸法です。細かく刻んだり、ペーストにして食べていた方が、この調理法を使うと普通食の方と同じように形のある食事が摂れるようになるそうです。常食と同じように何の料理か見た目で分かり、

酵素を使用していることで、消化吸収もよくなりビタミンの損失が少なくなる等のメリットがたくさんあります。

しかし、良いからと言って、簡単には厨房で取り組むことが出来ないほど難しいと感じています。金額の問題や調理員の動き、酵素や真空にする機械の導入等まだまだこれから考えなければならぬ課題がたくさんありますが、昨年の反省をもとに利用者様に提供できるよう努力を続けていきたいと思えます。

最近友人から会社を支える三つ基盤は、「システム」「ルール」「人」だという話を聞きました。「システム」「ルール」や「ルール」を作るのは人であり、人材育成こそが会社が発展し続ける手段であると言われました。私の取り組みは、利用者様にも職員にも気持ちよく元気であいさつをしようと心がけてきました。自らのテンションも上げることが出来職場の雰囲気もよくなります。職員同士のコミュニケーションも取れ仲間の気持ちも少しずつ理解できるようになれば人材育成にもつながるのではないかと考えます。このような取り組みで利用者様に少しでも貢献することが出来れば幸いです。今年度の目標として、日々の業務を確実に遂行するのは勿論のこと、主査として、職員の話聞き、出来ることはすぐやり、すぐ出来ないことは出来るように努力をして、自分の考えをはっきり伝えることで、

厨房の中、又は施設の中で信頼関係を築けるよう頑張っていきたいと思えます。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター （創作者活動を通じて）

介護員 平野 栄里子

私が望みの門デイサービスセンターに入社して今年五月で一年になります。

入社当時は覚える事が多く一日があっという間に終わっていました。半年たった頃は目の先の業務に一生懸命で一日が終わっていました。昨年十月頃から心にゆとりができ、フロアに目を向けられるようになり、ご利用者ひとり一人とコミュニケーションを深める事ができ自分自身嬉しく思いました。

望みの門デイサービスセンターに入社する以前も介護の職務に二十年近く携わっていましたが、ご利用者（高齢者）の方との関わりで笑顔が生まれ和やかな時間を提供できた時、介護員としてやりがいを感じました。

私は今、創作活動を担当しており毎月、色々考え利用者の方と試行錯誤しながら作品を完成させています。

昨年までは私自身にゆとりがない事もあり、ご利用者の方にお任せ部分が多かったり、創作活動に参加する方も限られてました。

しかし最近「共に一つの作品を楽しむながら完成させる。」事を意識してご利用者の方と関わるように心がけています。ご利用者には塗り絵を塗るのが好きな方、色紙をバランスよくちぎる作業が好きな方、折り紙を折るのが好きな方など様々です。ご利用者ひとり一人好む事好まない事、得意不得意を把握しながら一人でも多くのご利用者と共に楽しく素敵な作品を作る創作活動にしたいと考えています。



今年に入り、ご利用者の方から「何かちぎる物あったらやるよ。」と言ってくださった「何か塗る物があったら塗るよ。」「今度、折り紙で何か作りたいね。」等、ご意見をくださるご利用者が増えてきました。創作活動の担当として、とても嬉しく、やりがいを実感しています。新年度は一人でも多くのご利用者が参加でき「デイサービスの楽しみの一つ」とご利用者の方に思ってもらえる創作活動に出来るよう努めたいと思っています。

訪問看護ステーション 望みの門訪問看護ステーション

新年度に向けて



管理者 岡 和子

朝晩と冷え込む日もありますが、日差しや風に春を感じるようになってきました。訪問に出ますと菜の花や河津桜が目を惹かせてくれています。

昨年七月に前任者より管理職を引き継ぎ、早いもので八ヶ月が経過しました。管理者補佐として携わっていたこともあり、管理職の業務内容は多少把握していましたが、実際自分自身が管理業務に携わる事で業務の複雑さを日々実感しています。

しかし有り難いことに、慣れない新米管理者の私を職場のスタッフは暖かい目で見守ってくれており、各自自分のやるべきことを把握し、責任を持ち遂行してくれています。

周囲に助けられながら仕事ができる事に感謝しています。昨年十二月に非常勤の理学療法士、今年二月には紫苑荘兼務として看護師の入職もあり、職場も活気づいています。人材を活かし有効なマネジメントを行うことは管理者として最も必要な役割であると感じています。

訪問看護マーケティングを考えるにあたり、利用者増に繋がる働きかけとして必要な

要件は何でしょうか。日本の医療費は高齢化により、増加傾向です。二〇二五年には医療費は五十兆超えと言われています。国の医療費の四十六％は高齢者医療費です。その為国は、医療費抑制対策として在院短縮化を図り、在宅療養に力を入れています。それに比例し訪問利用者数も二〇〇一年に三十四万人でしたが十年後には四十一万人と二十％増加しています。利用者の増加に伴い、ステーションも増加しており社会的重要性も上がっているものと思われれます。反面、多くのステーションの経営は厳しく、特に小規模ステーション(常勤換算三人未満)において赤字経営が多いのが現状です。ステーションの三十％強が赤字経営であり、我がステーションも小規模、赤字経営です。設立から今年度で五年の節目を迎える為、視点を変えながら赤字脱却に向けて経営戦略を計っていきたいと思います。市場浸透、開発に対し、富津市を市場とし



研修先で見かけたゆきやなぎ

て捉えた場合の結論として現利用者の訪問回数増加、新たな訪問看護先の開拓や対象を広げる事により開発は可能と考えられます。しかし拡大には人材が必要となります。一番の支出の人員費を抑え、利益を上げるには実績報酬契約スタッフの獲得が望ましいと考えます。また、有益な人材である職員の離職を抑え、人材の定着化を図る為にも手当の優遇措置も必要な支出と考えます。安定した職場が良質なサービスを生むのではないのでしょうか。平成三十年は介護・医療報酬の同時改定の年でもあります。動向に留意しながら望みの門訪問看護ステーションも新たな気持ちで新年度を迎えたいと願っています。

居宅老人介護 望みの門ホームヘルプサービス 今年も温かいサービスで

管理者 白鳥 尋子

望みの門ホームヘルプサービスは、キリスト教の教えに基づき、利用者様の意思・人格を尊重し、利用者様の立場に立って可能な限り居宅で自立した生活ができるよう、また、ご家族様のお力になれるよう援助を開始して十七年。富津市も高齢世帯・一人暮らしの高齢者の方が年々増えております。私たち訪問介護員は、必要に応じてその様な方々の生活

のお手伝い（掃除・洗濯・食事作り等の生活全般から、食事介助・入浴・排泄等の身体的支援）をさせて頂いております。また、計画に基づく支援をしながら、利用者様・ご家族様のお話を聴くなど精神的なケアもできるよう努めております。「待っていたよ」「ありがとう」「また来てね」等の温かいお言葉、お話をしていると「これで少しまた頑張れるよ」というご家族様。訪問している私たちにとってはうれしい限りです。が、私たち訪問介護員も利用者様のお元気な顔や声・ご家族様の笑顔で、パワーをいただいております。

今年も昨年と同じ十名の訪問介護員で、笑顔で元気に支援させていただきます。また、介護保険外サービスも行っております。介護保険での支援として依頼できない事がありましたら、ご相談ください。訪問介護の契約を行っている高齢者の方も大丈夫です。

利用の有無、支援などに関わらず、介護についてお困りのこと・聞きたいことなどありましたら、富津・君津市内を走り回っておりますので、お気軽に声をおかけください。お話を聴き、誰もがよい方向へ向かえる様お手伝いしたいと思っております。

今年度もより良いサービスを目指して努めてまいります。よろしく
お願いいたします。



就労継続支援事業 望みの門 新生活舎
新たなスタートに問われるもの

施設長 森 和浩

思いがけない雪が舞い、心なしか今年の冬は今まで以上に厳しかったように感じるのは私だけではないようです。さて新生活舎も新しい年度を迎えることとなりましたがスタートとしてはとても厳しいものとなりました。三年に一度の報酬単価の改定は児童施設や住宅支援・医療的ケアに重きが置かれ、特に障害福祉サービスの中でも就労移行支援・就労継続支援に対しては目標工賃達成加算の廃止や送迎加算の減額、また、市町村の級地も変更になりました。食事提供加算の廃止も騒がれていました。食事が全額利用者負担といっていたのが十二月に継続が示され、もし継続されていなければ食事は全額利用者負担といった事態に陥っていたかも知れません。これは今回の改定で唯一利用者が救われた施策と感じます。しかし、事業収入の減収は自ずと施設設備や利用者の活動に大きく影響することになり今まで予算を支出できたものも少しづつ削って対応するしかないというのが現状の様です。国の指針として今までは届いていない事業に光をあてるというのは理解できませんがなぜ就労支援だけがその余波を被ること



【写真解説】

昨年十二月二日に実施した社会学習旅行（東京ディズニーランド）の写真です。作業をみんなで頑張ったご褒美の楽しい一日。利用者のほぼ全員が参加して夢の世界を満喫しています。

になるのか理解できず、全国の就労支援事業所からも国に対して疑問が投げかけられています。とはいえ嘆いていても新しい加算がつく訳でもなく、新生活舎としても新たな進路を導き出す努力が必要となります。現在まで継続してきた作業活動はそのままに、収益を上げる努力は精一杯してきたけれど既に限界点を迎え、工賃の増額、ましてや倍増という目標は難しいものと予想されます。では何を主体にしていくことが必要かと問われれば自ずと利用者支援の質的向上と言わざるを得ません。利用者も年々高齢化が進み、今までどお

りの作業活動が続けるのにもいづれ無理が生ずることでしょう。利用者一人ひとりの能力・体力・健康面・精神面に配慮した作業活動とそれに見合った工賃を提供できる業務改善が必要となります。具体的に何をというのはまだ鮮明には描けていませんが、まずは利用者のニーズがどこにあるのかを確認して取り組みたいと考えます。利用者の出勤率は二十九年度一年間で九十%を上回り、県内の事業所の中でもトップクラスである新生舎。毎日休まず笑顔で出勤する利用者に私たち職員が何を提供すべきかが本当に問われる一年になりそうです。

共同生活援助事業 グレースホーム

共に楽しむ



管理者 樋口 千恵

「疲れてる?」「いいえー、ちっとも。」いけない、いけない。顔に出てる。態度に出た?利用者さんの前ではちよっとテンション上げないとすぐにそう言われます。「倒れられたら困っちゃうよ」と肩まで揉んでくれたり。嬉しいなあ...うちの利用者さんは職員の扱いが上手いです。でもやっぱりそんなかわい場面ばかりではなくて、毎日四つの内のどこかのホームで問題が起きます。あっちのホー

ムではケンカ、こっちのホームでは風呂に入らず閉じこもり、そっちではなくし物が見つからず部屋中ひっくり返す。どれも放っておけば一人では解決できず、明日の不安定の種になってしまいます。グループホームの世話人の仕事は食事や掃除だけと思われがちですが、食事を作りながら、掃除をしながら利用者さんを見ているのです。食事や排泄、入浴や歯磨きでも個々に応じた支援があり、相談や問題解決等その仕事は多岐にわたります。特に高齢・重度化は課題であり、年々求められるサービスは専門化し多様性が必要となっています。今いる世話人全員が障害福祉を学んだり経験してきたわけではありません。経験がない分、戸惑うことや迷うことも多かったかもしれない。そして大抵はホームで一人の業務となるが多く、賑やかな利用者さんの中において孤独な職種と言えるかもしれません。「利用者さんの情緒の安定」に気を配っている職員のメンタルもとても大事です。孤独は大きなストレスになりかねません。何でも相談し、気づいたことをすぐに言える職場でありたい。一人からの発信を職員全員で共有したい。一人ではない、職員同士が繋がっていることを感じ力にしたい。そして気持ちを温かくして支援にあたりたい。利用者さんには職員の情緒の明暗はわかってしまうのですから。

地域活動支援センター 望みの門ヨカデイサービスセンター

一日一歩



管理者 三幣 知子

ヨカデイサービスセンターの利用者さんは高齢の方が多いのですが、皆さん身体を動かすのが好きで毎日体操や散歩を楽しんでいます。特に散歩は足腰の運動というよりは気分転換になっているようです。昨年の四月から利用者さんと一緒に昼休み散歩に出かけていますが、雨の日以外はほとんど歩きに行っていましたように思います。散歩コースはその日の利用者さんの気分が変わり、天気の良い日には海まで行くこともあります。先日、どの位の距離を毎日歩いているのか気になり測ってみると約一・五キロありました。計算してみると千葉から館山を軽く一往復できるほどの距離でした。利用者さんは特にそんなことを考えて歩いてきた訳ではありませんが、結果それだけの距離を歩いていたという



ことにびっくりでした。そこで、ただ続けるだけではもったいないので利用者さんにもどれだけ歩いたのかが分かるような物を作りたいたと今考えているところです。日本一周は距離が長いのでまずは、身近な千葉県一周あたりから始めてみたいと思います。今自分がどれだけの距離を歩いているのか目で見ることで、気分転換だけでなく取り組む意欲に繋がってくれたらうれしいです。また、あまり散歩に出かけない利用者さんにも良い刺激となればと思います。一歩ずつでも楽しく続けていくことが大きな成果となりますね。

千葉圏中核地域生活支援センター 君津ふくしネット
内も外もともに力を合わせて相談支援を!

君津ふくしネット一同

君津ふくしネットは今年度十月に十四年目を迎えます。

二十九年二月末に中核地域生活支援センター君津圏域連絡調整会議を行い、君津健康福祉センターとともに、今回初めての試みとして事例検討をグループワークで取組むことになりました。君津圏域四市役所担当者関係機関、地域包括支援センター、相談支援事業所、特別支援学校、病院の相談室、警察生活安全課等様々な支援機関から六十三名のご参

加を頂くことが出来ました。参加された方々は各機関で支援を日々実践されています。詳細とは言い難い情報にも拘らず、又三十分間の短い時間でグループ約十人が知恵を出し話し合い、支援の方向付けを見出し発表されました。今回は事例に関する深い読み込みと話し合いまでは期待せず、沢山の機関が顔を合わせる機会となればという思いでしたが、企画側の意図を超えて適格な発表となり驚きました。

昨年四月、中核地域生活支援センターの実施要綱が一部改正され、新たな事業展開を試みております。①包括的相談支援事業②地域総合コーディネート事業③市町村等バックアップ事業④権利擁護事業の四点が事業の内容となります。

縦割りの支援ではなく、相談者が一か所の相談機関へ足を運ぶことで多様な支援を受けることが出来、地域の各機関が計画的に機能し活用され、市町村行政の支援が、より円滑に効率的且つ高いレベルで行われます。



中核地域生活支援センターの存在の意味は上述の内容を受けて、各支援機関の連携が円滑に運ぶことは大きいと思います。私たちが関わる支援の多くは、市役所の各支援課、交番、保健所、民間が行う居場所、病院、社会福祉協議会等様々な機関と協力関係を持った支援を行っています。協力体制の構築の重要性を改めて再認識しています。前年度に引き続き、今年度も、内には君津ふくしネットの職員が、外には地域における支援機関が知恵と力を合わせ、誰もが明るく優しい暮らせる街作りを目指して、皆さんとともに力を合わせて相談支援に努めていきたいと思えます。

富津市富津地区地域包括支援センター
地域をつなぐ役割として

相談支援員 堀口 麻理子

ちょうど昨今の頃は社会福祉士の受験結果を待ちながら、また資格を活かした仕事をしたいと考え、望みの門の採用試験を受けていました。ご縁があり七月に入職し、早いもので八か月がたちました。

地域包括支援センターでは、富津地区住民や地域で活動する方々の相談支援を行っています。相談にあたっては、養成校で学んだ相談援助のイメージを意識して対応しています。

相談者が自転車に乗っているとします。困難がありなかなか進むことができない状況です。そうした時に、積極的に前からリードするか、並走するか、遠くから見ているか。相談者に対して援助者はどのような立ち位置で支援するのが望ましいか。

自転車運転している相談者を後ろから支え、徐々に支えを軽く、気付いたら手を放しても相談者自身が前を向いて運転できるように見守っていくのが我々の役割だと学びました。「あなたがきてくれて助かる。いないと困る。」など、感謝の言葉は嬉しく励みにも繋がりますが、はたして支援する立ち位置は適切だったのか。相談者が前を見て進むことができるようにサポートする。簡単なようですが、匙加減が難しいところです。

富津市では三十年度から本格的に、自立支援のための地域ケア会議が始まります。様々な専門職が、利用者の自立に向けて働きかけを行います。また不足する社会資源を確認し、地域



住民が担い手となり活動していけるような地域づくりが目標となっています。グッとしっかりした後押しが必要な段階ですが、富津地区の方々走り出すことができるよう、センターの先輩方と協力しながら業務に励みたいと思います。

児童養護施設 望みの門かずさの里
里に就いて思うこと

児童指導員 荻野 修平

十一月末よりかずさの里に就いて、約四ヶ月が経ちました。前職が福祉用具の営業だったこともあり、今までは高齢者の方々との関わりがメインでした。その為児童分野の仕事に就くことに不安を感じつつ入職しましたが、里の子どもたちの「明るさ」、先輩職員の方々の「親切さ」に支えられ、少しずつ慣れ始めた今日この頃です。

「子どもと関わる仕事に携わってみたい」との思いから前職を辞め、里に来ましたが、日々児童指導員としての専門知識・スキルが足りないと感じさせられることばかりです。特になかなか話が入って行かない子どもや、「家に帰りたい」という気持ち強い子ども、彼らの様々な場面での声掛けや対応をしていく際に専門技術の無さを強く感じさせ

られます。その都度、先輩職員の方々に相談・質問をし、アドバイスをはじめ経験等の話しを頂き、入職時に比べ幾分か成長することができています。引き続き先輩職員との報・連・相を通して、自身の糧を大きくしていくと共に、様々なアンテナを張り、子どもたちの些細な変化に気付ける気つき責任の力を身に付け、子どもたちに寄り添っていく力をまずつけたいと思います。



まだ日常業務の把握・理解の部分で精一杯になってしまいがちですが、それを言い訳にせず、専門知識・スキルの習得を学習に努める覚悟です。児童指導員という専門職としての意識を日々持ち、子どもたちが安心して過ごせる居心地の良い家づくりに貢献できたいと思います。自分に甘え、ただ時間を過ごすことのないよう、しっかりと振り返りをしたい、子どもたちと共に成長できればと思います。



乳児院 望みの門方舟乳児園

これからの取り組み



園長 白鳥 正道

昨年は厚労省より「新しい養育ビジョン」が示され、社会的擁護を實踐してきた現場から少なからず異を唱える声が上がっています。平成二十八年の児童福祉法改正で子供が権利の主体であることが明確になり、家低養育優先の理念が規定されました。当然今までもその考え方はあるべき姿として認識されてきました。しかし遅々として理想に近づけないもどかしさも抱えていました。それらを実現するために目標値や時期、工程表を含む内容でビジョンが示されました。乳児院に至っては「原則施設への新規措置入所を停止する。」と書かれています。その受け皿として里親が提供する家庭養育が必要になります。里親支援体制を強化し、リクルート、研修、支援等一貫して質の高い里親支援体制を整え、障害のある兄やケアニーズの高い兄の受け入れを可能にする里親制度の迅速な推進が必要になります。では乳児院に求



められていものとは。

・ビジョンには以下の内容で書かれています。
 ・乳児院の固有の機能や新たな事業を明確にし、乳幼児及び家庭を支援するセンターとしての機能転換

・ケアニーズが非常に高く施設等における十分なケアが不可欠な場合は高度専門的なケアの集中的提供を前提に、小規模・地域分散化された養育環境を整えた上で、その滞在期間は、原則として乳幼児は数か月以内とする。ケアの集中提供のため児一人にワーカー二名を配置するなど十分な職員配置を確保

・乳幼児とその親子関係修復のアセスメント
 ・障害児ケアと里親委託準備のアセスメント
 ・親子関係改善への通所指導

・産前産後星の入所を含む支援
 ・家庭復帰に向けた親子関係再構築支援
 ・里親、養親支援の重要な役割
 ・一時入所は限定的、抑制的に判断

・多機能化、機能転換し、新たな役割を担う
 これらは、どれも新しい取り組みになります。国としては、おおむね五年で実現する計画です。もちろん乳児院だけでなく、自治体や児相、里親も同時並行で取り組む課題があります。

権利主体者が蚊帳の外にならないよう、自分たちの課題については前向きに取り組んでまいります。

児童家庭支援センター 望みの門ピーターパンの家

子育て応援団



管理者 井本 千鶴

望みの門ピーターパンの家は開設から六年度の春を迎えることが出来ました。地域の皆さま、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。昨年度は、週一回「フリースペース」という、親子の集いの場を設け、多くのご家族と出会うことが出来ました。年間を通して遊びに来て下さるご家族も多く、保護者の方と一緒に子どもたちの成長を間近で感じることができ、とても嬉しく、楽しい時間を過ごすことができました。昨春にはヨチヨチ歩きだった子どもが、あつという間に上手に歩けるようになっていたり、「あー、あー」という声を出すことしかできなかった子どもが「ママ」とはっきりとした言葉が言えるようになり、「これ、取って」と意思表示までできるようになったりと、その成長ぶりには、目を見張るばかりです。ある講演会で、子どもは意思と力を持って産まれてくる。子どもは、自らの意思で母親と協力し「産まれたい」と思い、この世に誕生してくるといふこと、生きる力、自ら学び取る力が、既に備わっているということを伺いました。つい、子どもたちに何かをさせ

たくなってしまうことが多いのですが、その意思と力を信じて、応援できる環境を用意することこそが、重要なのだと改めて感じました。

子どもたちの目ざましい成長を近くで感じ、ともに喜ぶことができ、この職に感謝し、子どもたちを応援できる環境づくりに力を入れていきたいと思えます。今年度もまた、多くのご家族と出会えることを楽しみにしております。どうぞお気軽に足をお運びください。



児童心理治療施設 望みの門木下記念学園 育児休暇を終えて

栄養士 小林 菜津美

昨年八月に一年間の育児休暇を終えて仕事へ復帰しました。復帰先は上総湊にある児童の施設と聞いて、今まで十年間お世話になった楽生園や合同厨房を離れる事になり、不安もありましたが新しい職場でスタートをきる

事への期待もありました。

児童心理治療施設ってどんな施設なんだろうという疑問や分からない事もたくさんありました。また、ずっと老人施設の献立を考えてきていた私に、児童の食事管理がきちんとできるかなという不安もありました。異動して半年ですがまだまだ課題もたくさんあります。でも、厨房で調理に入っているときに給食を食べ終えた子供たちが、「美味しかったよ」と元気に声をかけてくれたり、「今度はこれが食べたい」などリクエストしてくれたり、反応がすぐにかえってくるのはとても嬉しいです。

昨年は夏にバーベキューをしたり、年末には餅つきをしたり行事も子供たちと一緒に参加する事ができてとても楽しかったです。今年もたくさんある行事と一緒に参加できたら良いなと思います。

これからも、子供たちの健康な体作りに貢献できるように安心して安全で美味しい食事を作りたいと思います。



編集後記

「三寒四温」とはよく言ったものである。また、「暑さ寒さも彼岸まで」と言う。昔の人の表現には自然をよく観察し、自然を生活の中に取り入れたからであろう。

今朝は庭の柿の木の枝先に一斉に黄色の新芽がのぞいていた。さて本号の巻頭言を読者はいかが読まれたであろうか。この三月から理事長ご夫妻は望みの門構内に住まわれる。理事長は十六年前に奥山前理事長の後任として就任され今日までご指導を頂いてきた。それがこれからは富津ゾーンに永年住まわれた千葉市からお出でになる。このことは法人運営への影響に誠に大なるものがある。元来、施設長は施設内居住が常識であった。昔の話ではあるが・・・

しかし起居をサービスを受ける側と与える側とが共にすることにより、緊密な人間関係が築かれ、今は殆ど省みられることのなくなった共同体意識が醸成され、良き成果が見られた。ただし、これは職員も共に暮らした今は古き良き時代のことである。

ともあれ、望みの門にとり富津ゾーンにご夫妻が居を定められた事は吉兆であり、心から歓迎したい。

(Y・I)